

ワールドキャンパスインターナショナル
2011 年度プログラム
概要報告



<目 次>

1. 2011 年度事業の全体概要	
(1) 2011 年度事業の全体概要.....	1
2. ツアープログラムの概要	
(1) ツアープログラムの全体概要.....	2
(2) 第1セッション.....	4
(3) 第2セッション.....	6
(4) 第3セッション.....	8
3. 被災者・被災地支援プロジェクトの概要	
(1) 一日学校“キッズ・キャンパス”プロジェクト.....	11
(2) ツアープログラムの中での取り組み.....	12
4. 今回の成果と今後の課題	
(1) 成果.....	14
(2) 課題.....	14
(3) 関係者の感想.....	15

参考資料

- ・ 参加者リスト
- ・ 各地 LOC 等協力組織（代表）リスト
- ・ スタッフリスト
- ・ 協力企業・団体等

1. 2011 年度事業の全体概要

(1) 2011 年度事業の全体概要

今年度は、従来のツアープログラムに加え、東日本大震災に関連した被災者・被災地支援プロジェクトを実施した。

全体の概要は以下のとおり（時系列）。

事業	日程	都市名	参加者	内容
一日学校 “キッズ・キャンパス” プロジェクト	4/14～17	南 三 陸 町	社会人・大学生 24 名	NPO キッズドアと共同で避難所の子どもたちに対する一日学校を開校
ワールドキャンパスジャパンプログラム	6/23～8/12 3セッション制	6 都市	8 カ国 20 名	※詳細は次ページ以降



2. ツアープログラムの概要

(1) ツアープログラムの全体概要

①スケジュール

前年度に引き続き、2010年末に第2回LOCフォーラムを実施し、LOC間の合意に基づいたスケジュールを決定したが、3月11日の東日本大震災の発生により計画を大幅に変更した。

⇒各地LOCならびに参加申込者の意向調査を行った結果、東日本におけるプログラム実施を断念し、西日本での3セッション（長崎県大村市／福岡県大牟田市、熊本県荒尾市・熊本市／奈良県宇陀市、大阪府吹田市／愛知県豊田市）のみを実施した。

⇒昨年から学校に特化したプログラムを準備してきた経緯から、新たに福岡県大牟田市にもご協力を頂くことができ、新たな協力地域として加わった。

※LOCフォーラム：各地の協力組織“ローカルキャンパス”（通称：LOC）のメンバーが集まり、情報共有・意見交換を図ることで、各地の横断的な連携を促進する。

【2011年ワールドキャンパスジャパンプログラム】

セッション	日程	都市名	主な活動
第1セッション	6月23日～7月2日	長崎県大村市	原爆資料館、少林寺拳法体験
	7月2日～7月7日	福岡県大牟田市	小学校体験、カルタ資料館
第2セッション	7月11日～7月19日	熊本県荒尾市 ・熊本市	刀鍛冶見学・居合い体験、こうのとりのかご、熊本城
	7月19日～7月25日	奈良県宇陀市	老人ホーム見学・交流、座禅体験、室生寺、東大寺
第3セッション	7月29日～8月6日	大阪府吹田市	大阪タウンツアー、復興支援事業プランづくり、大阪料理体験
	8月6日～8月12日	愛知県豊田市	JICAワークショップ、トヨタミュージアム、農作業体験・ディスカッション

(参考)

【2010年ワールドキャンパスジャパンプログラム】

セッション	日程	都市名	主な活動
第1セッション	6月5日～6月16日	熊本県荒尾市 ・熊本市	うどん打ち体験、こうのとりのかご、弓道体験、熊本城
	6月16日～6月19日	広島県広島市	平和記念館
第2セッション	6月23日～7月1日	長崎県大村市	障害者イベント参加、

			原爆資料館、少林寺拳法体験
	7月1日～7月7日	奈良県宇陀市	自然ウォーク、日本刀鑑賞、座禅体験、室生寺、東大寺
第3セッション	7月11日～7月19日	長野県上田市	給食センター見学、そば打ち体験、上田城見学
	7月19日～7月24日	茨城県取手市	商店街PR支援、凧揚げ大会、クボタ見学
第4セッション	7月29日～8月6日	東京都多摩市	東京大学生ツアー、おじさま・おばさま交流、AED講習
	8月6日～8月12日	愛知県豊田市	田んぼ体験、トヨタ見学、移民問題ディスカッション
第5セッション	8月16日～8月24日	茨城県水戸市	高齢者施設交流、原発施設見学
	8月24日～8月30日	千葉県我孫子市	環境ウォーク、子ども企画による交流、地元夏祭り参加

②参加者

前年度同様、11月と2月の2回、欧米でのリクルート活動を実施し、特にベルギー、オランダ、ドイツ、デンマーク、ノルウェー、フィンランドからの申込みが多数あったが、東日本大震災（および原発事故問題）の発生を受け、明確なキャンセルが20名程度あったほか、手続きが進展しない実質的な取りやめが相次いだ。

⇒震災にも関わらず、オランダとノルウェーからの参加者は例年よりも多く、日本文化や日本語を真剣に学んでいる大学やアニメなどのサブカルチャーを通じたコミュニティなど、適切なチャンネルが確認できた。

⇒日本国内での参加者募集ができず、開始以来はじめて日本人参加者が0名だった。

参加者数：8カ国、20名（各セッション人数：8、14、12）*スタッフ4名+インターン2名を除く

※累計201名、37カ国：アメリカ、カナダ、メキシコ、ベネズエラ、ブラジル、ポルトガル、スペイン、イギリス、ドイツ、オーストリア、ベルギー、オランダ、ルクセンブルグ、イタリア、スイス、デンマーク（グリーンランド含む）、スウェーデン、ノルウェー、フィンランド、ロシア、ウズベキスタン、キプロス、トルコ、カタール、ケニア、ウガンダ、オーストラリア、ニュージーランド、パキスタン、ネパール、インドネシア、ミャンマー、モンゴル、韓国、中国（香港含む）、台湾、日本

（参考）

2007年度プログラム：15カ国、39名
 2008年度春季プログラム：13カ国、23名
 2008年度夏季プログラム：12カ国、22名
 2009年度春季プログラム：14カ国、23名
 2009年度夏季プログラム：18カ国、35名
 2010年度プログラム：18カ国、39名

(2) 第1セッション

①スケジュール

日付	概要
6月23日(木)	長崎空港→大村集合、対面式
24日(金)	オリエンテーション(暮らしガイド等)、大村市長表敬
25日(土)	少林寺拳法体験
26日(日)	ホストファミリーデー
27日(月)	オリエンテーション(イベント準備)
28日(火)	長崎原爆資料館ツアー
29日(水)	ありがとうイベント
30日(木)	休日
7月1日(金)	小学校体験(竹松小学校)
2日(土)	移動→大牟田、対面式
3日(日)	ホストファミリーデー
4日(月)	小学校体験(三池小学校)
5日(火)	小学校体験(三池小学校)、交流イベント
6日(水)	三池カルタ資料館、セッションのまとめ、自由時間
7日(木)	福岡空港・博多駅解散

②ハイライト

● 長崎県大村市

参加者に好評な障害者イベントが今年は開催されなかったため、長崎での平和学習をメインとする滞在となった。

- ・ いずれも例年の活動であり、運営もスムーズだった。放課後の小学校での保護者を交えた交流は新たな試みであり、今後の進化・深化が期待される。校内での実施ではあるが、学校ではなく保護者主導の活動のため、WCI側と直接の事前打合せが重要である。
- ・ 行政の事情による事業中止は残念だったが、これまでのつながりから障害者イベントに代わるような活動の可能性が検討されることを期待する。



● 福岡県大牟田市

学校プロジェクトを準備してきた経緯があり、震災発生を受けた計画変更に伴い、急遽新たな協力地域として加わって頂いた。前の大村市と併せ、二つの学校を比較することができ、多角的に体験することができるセッションとなった。

- ・ 同じ学校に 2 日間 “通う” ことができたため、子どもたちとの距離が非常に近づき、より深い交流をすることができた。ありがとうイベントとは異なる学校仕様の交流企画も効果的だった。
- ・ 特化した学校プロジェクトではなく、通常のプログラムの中での実施を考えていく場合、活動企画について多様な地元住民の方たちと意見交換していくことが重要であり、“LOC” づくりも必要となる。



③参加者の感想

<最も心に残った活動>

- ・ ホストファミリー
- ・ 2 日間連続での小学校活動

<感じたこと> (一部)

- ・ 教師を目指しており、学校での体験を通じて自信ができた。教師になる！
- ・ 原爆資料館での英語での体験談は直接的に伝わり、メッセージがとても心に残った。
- ・ 体を動かす活動や、日本文化の体験などもあるといいかな。。。
- ・ かるた資料館については工夫の余地あり。。。



(3) 第2セッション

①スケジュール

日付	概要
7月11日(月)	福岡空港→荒尾集合、対面式
12日(火)	オリエンテーション(暮らしガイド、市長の荒尾紹介等)
13日(水)	〃 (イベント準備)
14日(木)	刀鍛冶見学、居合い体験、午後半休
15日(金)	【熊本企画】熊本城、慈恵病院「こうのとりのゆりかご」見学とディスカッション
16日(土)	市民交流企画「荒尾シティモール大学」
17日(日)	ありがとうイベント
18日(月)	ホストファミリーデー
19日(火)	移動→宇陀、対面式
20日(水)	宇陀紹介、地元子ども会との交流企画
21日(木)	室生寺見学、蓮昇寺にて座禅体験
22日(金)	高齢者福祉施設「室生園」訪問、高齢者余暇施設「元気村」でグランドゴルフ ※希望者オプション: 夕方から HF 交えて懇親パーティ
23日(土)	浴衣・茶道体験、ありがとうイベント
24日(日)	ホストファミリーデー
25日(月)	関西国際空港・大阪駅解散

②ハイライト

● 熊本県荒尾市・熊本市

荒尾市と熊本市の2LOCの共同実施として、熊本での一日企画を盛り込みながら、日本刀に触れる体験やショッピングモールでの国際文化フェアなど、荒尾での新しい企画を実現できた。

- 共同実施について、昨年の課題を踏まえ、2都市に均等に滞在するのではなく、一方に滞在しながら他方を訪問する形としたが、移動時間もかかり、駆け足の活動

になるため、依然として改善の必要がある。

- 出身国ごとにブースをつくり、各国の文化紹介や会話クラスなどを行うフェアをショッピングモールの一角で行い、それに併せて被災者応援の企画も実施することができた。モール側も非常に協力的であり、今後も応用可能なプラットフォーム的な企画として期待される。



● 奈良県宇陀市

日程の関係から毎年恒例のネイチャーウォークができなかったが、仏教関連、高齢者関連など、複数の企画をうまくまとめて実施でき、それぞれ多面的に体験・学習することができた。

- メーリングリストなどを通じて他地域の活動内容に関する情報をLOC同士でシェアしており、宇陀で数年間継続してきた日本刀鑑賞も荒尾と重複しないよう事前調整ができた。
- 子どもや高齢者など、多様な地域住民と交流することができた。子ども会との交流企画をありがとうイベントと連動するような設定にできると、より多くの皆さんと親しむことができるかもしれない。



③参加者の感想

＜最も心に残った活動＞

- 熊本城、こうのとりゆりかご
- 座禅体験、子どもや高齢者との交流

<感じたこと> (一部)

- 日本刀や茶道など、イメージ通りの日本文化体験はうれしかった。
- 日本語や日本の礼儀などについて、もう少し学べるような活動があるといいかも。。
- 世界から集まった他の参加者たちとこんなに短期間でこれほど仲良くなれるとは思わなかった。
- 暑さには参った。。



(4) 第3セッション

①スケジュール

日付	概要
7月29日(金)	関西国際空港→吹田集合、対面式
30日(土)	オリエンテーション(暮らしガイド等)、吹田紹介(泉殿宮、浜屋敷見学) http://blogari.zaq.ne.jp/hamayashiki/3
31日(日)	ホストファミリーデー
8月1日(月)	オリエンテーション(イベント準備等)
2日(火)	地元大学生と大阪魅力発見ツアー
3日(水)	休日
4日(木)	地元大学生と課題解決ワークショップ「災害復興のための事業プランづくり」 http://blog.canpan.info/entrepplanet/4
5日(金)	大阪グルメ調理体験、ありがとうイベント
6日(土)	移動→豊田、対面式
7日(日)	ホストファミリーデー
8日(月)	休日 ※希望者オプション:名古屋外大生ガイドによる名古屋城・大須商店街ツアー
9日(火)	『名古屋の日』JICAにて国際協力ワークショップ、トヨタミュージアム見学
10日(水)	『足助の日』田んぼ草取り、農業・環境ディスカッション、地域通貨“おむすび通貨”利用体験 http://asahi-gurashi.seesaa.net/index-6.html

11日(木)	豊田市民交流企画、ありがとうイベント
12日(金)	中部国際空港・名古屋駅解散

②ハイライト

● 大阪府吹田市

大阪周辺の大学生との交流を基本テーマとして、有志の大学生ボランティアスタッフが主要メンバーとして企画をたて、1週間の多様な活動を通じて参加した地元学生との間で深い絆が生まれた。

- ・ 多摩の活動を参考にしたタウンツアーや、上田や我孫子などでの活動を参考にした調理体験など、過去の他地域での活動内容を参考事例として“移植”できた。
- ・ 主要メンバーが関わりを持っていた NPO 法人の協力を頂き、課題解決ワークショップを実施することができ、少しずつ実感が薄れつつある震災について関西の大学生とも一緒に考える機会ができた。条件設定やコミュニケーション方法（＝英語・日本語）などについて、より細かく配慮していけば、震災に限らず応用できる企画のベースになっていくものと期待される。



● 愛知県豊田市

昨年の企画を進化・深化させ、JICA の活動内容や途上国事情を知ることのできるワークショップや、足助地区における農業体験と農業・環境に関するディスカッションなどを実施した。

- ・ JICA ワークショップ、農業企画ともに地元の大学生やホストファミリーの参加をより多く増やしていくことが重要。特に足助での活動については、WCI が媒介して豊田市街地からの参加者を増やしたり、メディアへの露出が増えることは一定の地域貢献になると期待される。
- ・ 毎年恒例になってきた名古屋外大の協力による休日の名古屋ツアーも好評であり、JICA 企画などの本体企画への地元大学生の参加促進も重要。豊田市民交流企画も実際の市民との交流が若干不足したことが課題であった。



③参加者の感想

<最も心に残った活動>

- 大学生との大阪タウンツアー
- 農作業体験（田んぼの草取り）

<感じたこと>（一部）

- トヨタミュージアムは期待したとおり、非常に興味深かった。
- スポーツなど、少し体を動かす活動をしたかった。
- 田んぼでの作業がこんなに大変だとは思わなかった。一生の思い出になった。
- 虫は絶対 NG!!!



3. 被災者・被災地支援プロジェクトの概要

(1) 一日学校“キッズ・キャンパス”プロジェクト

①スケジュール

日付	概要
4月14日(木)	深夜出発
15日(金)	早朝到着、被災した小中学校の校舎として活用する隣市の廃校を清掃
16日(土)	戸倉地区の中心避難所である青年自然の家で“一日学校”
17日(日)	16日の続き“半日学校”、午後出発→東京到着

②参加者

共同開催したNPO法人キッズドアのネットワークも合わせて2日間で参加者を募集し、社会人14名、大学生10名の計24名が参加した。

③活動内容

WCIの呼びかけで開催した震災復興支援の検討会の後、関係者から集まった支援金や物資を届けると同時に具体的な活動の可能性を確認するため、宮城県南三陸町への現地踏査を実施した。その中で、隣接する登米市の廃校を活用して再開する戸倉小中学校のための清掃ボランティアと、そこへ通うことになる子どもたちも避難している戸倉地区の中心の避難所となっていた青年自然の家での学習支援のニーズを確認することができた。それを受けて2日後、一緒に現地踏査をしたNPO法人キッズドアとともに清掃と一日学校の2種類の活動を連続して実施した。

なお、この後も、WCIスタッフが関わりながら、洗濯機の寄付やビューティボランティア（ヘア、メイク、カメラのプロのボランティア）に参加したり、主に南三陸町戸倉地区を中心に関わりあった組織や個人の集まりを設け、支援のネットワークを広げる活動などを続けている。

また、特に学習支援については、キッズドアが継続的に事業を行っている。



<全体の主な流れ>

4月2日 震災復興支援プロジェクト会議 (WCI 主催)

4月10日～12日 現地確認

4月14日～17日 一日学校 (NPO 法人キッズドア 共同開催)

6月4日 戸倉サミット@東京 (戸倉地区を中心に関わりあった組織や個人の集まり

※その後もネットワークを拡大しながら継続)

6月11日 洗濯機5台寄付

6月12日 ビューティボランティア (Tokyo de Volunteer 主催)



(2) ツアープログラムの中での取り組み

①Tシャツ販売

日本を元気づけるための有志によるムーブメント「底力ニッポン」と連携し、そのスローガンやデザインを活用した WCI オリジナル T シャツを作成した。ツアー参加者に配布し、ありがとうイベントの中で利用しながら、各地で LOC やホストファミリーに販売し、その収入を被災者・被災地支援のための寄付とした。



②ホストファミリー・メッセージ

各地でホストファミリーに協力をお願いし、各家庭滞在中に参加者と一緒に被災者・被災地への応援メッセージを自由に書いて (描いて) 頂き、それをありがとうイベントの中で披露して思いを一つにするとともに、その様子を撮影した写真などをツアー終了後にビデオにまとめ、寄付とともに被災者・被災地に送った。



4. 今回の成果と今後の課題

(1) 成果

- ・ 今回の参加者は地震や原発問題があってもキャンセルしなかったメンバーであり、非常にモチベーションも高かったため、各活動に積極的に参加しただけでなく、帰国後のPR、来年度のリピート参加やインターンへの関心が例年になく高かった。
- ・ 別プロジェクトでのご協力をお願いしていた福岡県大牟田市が、急な計画変更の必要性に対応して頂けたことにより、今後のメインプログラムへのご協力をお願いできることになった（新たなホストファミリー等の開拓もできた）。
- ・ その中で学校プロジェクトで考えるべき重要ポイントも明確にすることができた（数日間連続の活動やイベントの意義 など）。
- ・ 東日本でプログラムが実施できなかったことは残念だったが、その中で、取手LOCが宇陀を訪問したり、我孫子LOCが100万円を超える義捐金を共同募金会に寄付したり、多摩LOCが独自の復興応援イベントを開催するなど、それぞれが自立・主体的な活動を実現された。
- ・ 荒尾での“国際フェア”はさまざまなシチュエーションでアレンジが可能であり、基本モデルを作っておくと応用できる（⇒参加メンバーに自国文化を紹介する材料などを持参するよう徹底する）。
- ・ 室生寺見学と座禅体験、福祉施設見学と老人クラブ交流など、一つのテーマで見学と体験・交流などの異なる活動を連続してできると立体的な理解を深められ有効であることを確認した。
- ・ 多摩以外で、地元大学生が企画の全体を担当する事例ができた。地元大学生を交えアウトプットを明確にしたディスカッションも実現できた。ただし、学生は就活等でスタッフメンバーが毎年継続できないことが多く、人材確保が課題。
- ・ 豊田での農業体験企画は2回目になり、該当地区の受け入れグループの積極的な関与によって、活動自体もスムーズになっただけでなく、体験後の意見交換など、より充実した活動になった。



(2) 課題

- ・ さまざまな仕組みの効率化などを進めて、去年は最重要課題のリクルートに特に注力したが、震災発生により、今年はその成果を確認することができなかった。今年の参加者の協力も加えた来年の結果が試金石となる。

- ・ 参加者が集まらず、学校プロジェクト単独での実施をいまだ実現できていない。しかし、さまざまな事情により実質的に学校主体のプログラムとなった今回の第 1 セッションにより、逆に、単独の学校プロジェクトでのイベントの必要性などが明らかになった。
- ・ 来年度は東日本でのプログラム再開を念頭に置くが、原発問題の推移や各国での反応を見ながら、各 LOC との十分なやり取りが重要。
- ・ 2 年間継続して実施した LOC フォーラムについて、今年は財政事情から交通費の助成などが困難なため、スカイプ会議などの工夫をする必要がある。

(昨年からの再掲)

- ・ 各参加者が自国を象徴するものや紹介したいことなどを持参しなくなってきており、これも事前に徹底する必要がある。
- ・ いくつかの LOC でメンバーや HF の固定化が課題となっており、企画の質向上のための新しい視点や地域への寄与拡大のためにも協力者の拡充が必要であり、そのためにも各地でより多くの人に知ってもらえる情報発信が重要となっている。
- ・ ツアープログラムの短縮や新しいプログラムの開発に伴い、実施地域の調整が必要となる可能性がある。
- ・ 現時点で WCI から各地協力組織への資金助成は困難だが、例えば、地元製品の PR や物販など、協力組織の資金調達の支援あるいは労働による価値提供などは可能である（むしろ、活動内容の多様化につながる）
- ・ 商店 PR や地域の観光資源の開拓など、地域へのわかりやすい寄与も重要である（行政への PR やメディアへのアピール、ひいては地域での協力人材増加にもつながる）

※取手での老舗 PR ビデオ製作、荒尾での世界遺産登録の推進方策検討など



(3) 関係者の感想

<参加者からの一言>

- ・ まったく異なる文化背景を持つ人の中でのユーモアのセンス、リーダーシップを学んだ。
- ・ あまり楽しくない時にも、他に対して良くあろうとしたり、我慢したりすることはそれほど悪くないことに気付いた。

- 自分の新しい可能性を見せてくれた。
- 人に話すことで、自分の国のことがもっとわかるようになってきた。
- 教師になる！また、家族や友達も自分の小さな世界から出られるようにしてあげたい。
- もっといろいろな国に行きたい。もっといろいろな国の友達がほしい。
- 日本で英語を教えるのが夢です。
- 自分がとても変わったと思う。もっと世界のことが気になると思う。自分の経験を周りの人たちに伝えたい。来年も会いましょう！



<ホストファミリーからの一言>

- 一緒に東北へのメッセージを考えたことは楽しかった。
- 昨年もそうでしたが、一番変化のあるのは子どもでした。この 1 週間で恥ずかしがり屋だった子が髪の毛にビニールひもをつけてアピールしていました。
- 主人がホームステイにあまり乗り気ではなかったが、とても楽しんでくれて良かった。
- ホストファミリーの楽しさを周りの人に伝えて、活動の輪を広げてゆきたいと思っています。
- コンピュータを使っている時間が長かった。 スカイプでの長時間のコミュニケーションもどう注意してよいかわからない。
- 以前のホストファミリーのアンケート結果を事前に知ることができると参考になる。
- この地域に来る以前のホストファミリーでどんなことをしたのか、どんなものを食べたのか、などの情報があると良い。



参考資料

● 参加者リスト

【ツアープログラム】

	氏名	年齢	出身国	セッション
1	Catherine Hsieh	25	台湾	1
2	Daniel van Delft	19	オランダ	2, 3
3	Jurrien Theunisz	20	オランダ	1, 2
4	Iris Spruit	20	オランダ	1, 2
5	Daniel Gallion	35	ルクセンブルグ	1
6	Joakim Gåsøy	18	ノルウェー	1, 2
7	Kerou Wu	22	中国	1, 2, 3
8	Michael Nobles	26	アメリカ	1, 2, 3
9	Rianne de Rijke	24	オランダ	1
10	Nina Møller	21	デンマーク	2, 3
11	Alvaro Martin-Mazorra	20	スペイン	2, 3
12	Wei Chao Kong	26	中国	2, 3
13	Ola Johannesen	19	ノルウェー	2, 3
14	Alexandra Kristinnsdottir	18	ノルウェー	2, 3
15	Torunn Olsen	19	ノルウェー	2, 3
16	Hsiao Ting	18	台湾	2
17	Vegard Ovland	18	ノルウェー	3
18	Maria Sørli	19	ノルウェー	3
19	Su-Chien Yu	23	台湾	3
20	Li Chen	23	中国	2

● 各地 LOC 等協力組織（代表）リスト

	都市名	協力組織	LOC 外	代表者
1	長崎県大村市	NPO 法人 Up with おおむら		大隈和博
2	福岡県大牟田市	大牟田マスキーガン友好協会	○	森京子
3	熊本県荒尾市	アッピーありあけ		
4	熊本県熊本市	ワールドキャンパスくまもと実行委員会		前田香代子
5	奈良県宇陀市	室生国際交流村実行委員会		北森義卿
6	大阪府吹田市	国際隣人グループ SING		三原満里
7	愛知県豊田市	財団法人豊田市国際交流協会	○	高津康孝

● スタッフリスト

	担当	氏名	備考
1	総括	西村 紀公	NPO 法人理事長（リクルート及びスタッフ教育担当）
2	ジェネラルマネジャー	安井 英人	地域コーディネーター及び法人総務担当
3	エンrollmentメントマネジャー	ハフオードよしみ	（ツアー外）参加者受付及び国内リクルート担当

（ツアースタッフ）

	担当	氏名	出身国
1	プロダクション担当	Jay Kinsel	アメリカ
2	教育担当	Celiana Dolovitz	ベネズエラ
3	広報担当	Brandon Serna	アメリカ
4	通訳（兼教育・広報補佐）	三原 有生	日本
5	インターン（教育）	Frank Floris	オランダ
6	インターン（広報）	Yi Ting Cheng	台湾



● 協力企業・団体等

	都市名	企業・団体名
1	大村市	NPO 法人 Up with おおむら 大村市、大村市教育委員会・社会教育課・郡地区公民館、大村市少林寺拳法協会 大村西支部、竹松小学校、長崎県原爆資料館、財団法人長崎原爆被災者協議会
2	大牟田市	三池小学校、三池カルタ資料館
3	荒尾市	アッピーありあけ 荒尾市、荒尾総合文化センター、あらおシティモール、 ワールドキャンパスくまもと実行委員会、慈恵病院
4	宇陀市	室生国際交流村実行委員会 宇陀市、室生地域振興センター、妙円寺、室生寺、蓮昇寺、特別養護老人ホーム 「室生園」、ふるさと元気村、室生田口地区グランドゴルフ部、室生茶道クラブ
5	吹田市	ワールドキャンパス吹田実行委員会 吹田市、吹田市教育委員会、吹田青年会議所、財団法人吹田市国際交流協会、泉 殿宮神社、吹田市創造交流会館（旧吹田西尾邸）、旧庄屋敷保存会のみなさん、 NPO 法人アントレプレナーシップ開発センター、関西の大学生の皆さん
6	豊田市	財団法人豊田市国際交流協会 任意団体オープンハート、トヨタテクノミュージアム産業技術記念館、独立行政法 人国際協力機構、おむすび通貨物々交換局、株式会社 M-easy、名古屋外国語大 学の皆さん

合同会社ソーシャルベンチャーパートナーズ東京

株式会社チームビルディングジャパン

チャイルド・オアシス・プロジェクト（テーマ曲「KIZZUNA」制作）

<会員企業>

ランドマークプロダクツ株式会社

株式会社インサイドクルー

ジャパンエリアコードTV株式会社

In Japan Consulting

株式会社シラネインターナショナル

